

コンプライアンス委員会

コンプライアンス担当

コンプライアンスとは英語で「命令・要求に従うこと」という意味であり、「法律や条例を遵守すること」となる。コンプライアンスの基本にあるのは社会的責任であり、法令を遵守し、倫理的に教育活動を行うことが重要となる。そのため、教職員は「自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の崇高に努めなければならない」という責務が課せられている。学校の教職員は、より重い社会的責任を担う存在であるからには、スクールコンプライアンスを遵守しなければならない。

【研修計画】

- 1 研修 (1)職員会議後に行うボトムアップ型のミニ研修(10分程度)
(2)定例の会議等で行う管理職によるトップダウン型の研修
(3)適宜:コンプライアンスに関する案件発生時に文書(コンプライアンス便り)等による研修

2 研修の方法

(1)ボトムアップ型研修

- ・コンプライアンスにかかわる内容を担当が準備(資料等にまとめ、研修時に配布)
- ・担当ブロックの方々には内容に沿った資料の作成

月	担当ブロック	研修内容
6月	教務部、養護教諭	スピード違反
7月	6年部	情報セキュリティ
8月	5年部	著作権・肖像権
9月	支援部1	体罰
10月	4年部、事務担当	ハラスメント
11月	3年部	窃盗等の犯罪行為
12月	支援部2	飲酒運転
1月	2年部	公金等の不正処理
2月	1年部	交通事故

(2)トップダウン型研修

【「自分事」としてとらえるコンプライアンス研修】

	項目	
4月	服務について	・服務全般にわたり公務員として勤務するにあたっての心得
5月	実態把握	・コンプライアンスに関する個人リスクの分析と目標設定
6月	飲酒運転防止	・飲酒機会増加傾向に向けての注意喚起
7月	個人情報①	・事務処理期間に向かうための適切な管理
8月	面談	・情報の収集と風通しのよい環境づくり
9月	暴言	・児童主体の活動が充実する時期の指導徹底
10月	わいせつ	・わいせつ行為の事案活用による研修
11月	スピード違反	・年末に向け慌ただしい時期を迎える中での違反防止
12月	学校徴収金	・学校徴収金に対する正しい理解と会計決算に向けた対応
1月	過去事例	・教職員による服務規律違反事例
2月	個人情報②	・年度末事務処理に向けた対応
3月	振り返り	・コンプライアンスに関する自己管理

(3)コンプライアンス便り

- ・コンプライアンス事案発生時に、職員終会等でタイムリーに職員へ周知する。